2023 8 17 木　坂本龍馬新聞

坂本龍馬新聞

音更町立
共栄中学校
1年A組
織茂 修二郎

大政奉還

新時代の幕開け

1867年（慶応3年）10月14日に日本の二条城で江戸幕府15代将軍・徳川慶喜が、幕府が持っていた政権を朝廷に返還し、翌15日に天皇が奏上を勅許したこと。徳川慶喜は、薩摩・長州両藩を中心とした反幕府の連合軍が討幕の兵を上げる前に政権を返還することで討幕派の矛先をかわし、引き続き自らの影響力を保持することを狙ったとされる。

龍馬の生涯

1835年（天保6年）	土佐国（高知県）で生まれる。
1853年（嘉永元年）	剣術を学ぶため江戸へ上る。
1862年（文久2年）	勝海舟に弟子入りする。
1865年（慶応元年）	薩摩藩の援助で長崎に「亀山社中」設立。
1866年（慶応2年）	薩摩藩と長州藩の仲立ちをし、薩長同盟が結ばれる。
1867年（慶応3年）	「亀山社中」を「海援隊」とも名し、隊長になる。

土佐藩の後藤象二郎と会談し、大政奉還を提唱する。

「船中八策」を考える。

京都近江屋で刺客の襲撃にあい暗殺される。

享年　33歳

大政奉還…結局誰が行った？

大政奉還を行った人物は、15代将軍の徳川慶喜です。しかし大政奉還を考えたのは…坂本龍馬！

そう、これは龍馬が船中八策の五箇条の御誓文で考えた1つなのです。

船中八策

新しい政治の方針

土佐藩士の坂本龍馬は尊皇倒幕の勢いが強まる中「幕府を支持する藩はまだ多い、無理に武力で討伐しようとすれば内乱が起きるし、そうなればイギリスやフランスの外国勢が干渉してくるので平穏に事態を解決したい」と考え1867年6月長崎から上洛する途中、船中で新しい政治の方針をまとめました。また、船中八策は後に明治政府が発布する「五箇条の御誓文」にも影響を与える内容といわれている。

その内容は次の八つです。

一、政権を朝廷に返すこと（大政奉還）。

二、新たな上下の議会を作り世間の意見もとづいて政治を行うこと。

三、公卿や大名、ほかの優れた人材の中から政治へ登用すること。

四、日本に不利な条約を改定し平等な条約を結ぶこと。

五、新しく国家の憲法（法律）を定めること。

六、海軍の力を増強すること。

七、政府の軍隊を設けて都を守ること。

八、金銀の交換割合や物の値段を海外とつり合うようにすること。

謎多き死

大政奉還成立から1か月後、33歳の誕生日に京都の近江屋で暗殺された。

幕府が京都の治安を守るために作った京都見廻組が龍馬たちを殺したという説が有力です。明治に入ってから元見廻組隊士自身による証言もあります。そのほかにも、見廻組と同じく京都の治安を守っていた新撰組によるものとする説や、幕府を武力で倒す決意を固めていた薩摩藩が、大政奉還を提案した龍馬をうらんで殺した、という説などがあり、未だに謎である。

二条城

編集後記

僕が坂本龍馬について調べて、まとめた理由は当時、外国との問題とかがあって、そこで新しい日本を一開国した日本を見ろ！っていうのがかっこよくてそのきっかけを作ったのが坂本龍馬だから興味をもち、龍馬を題材に書かせて頂きました。